

学年	教科等	主題名	児童	場所	指導者
1年	道徳科	「だれにでも優しく」 B-(6)親切, 思いやり	1年2組20名	1年2組 教室	永森 麻奈美

育てたい資質・能力

◎道徳において育成を目指す資質・能力から本時にかかわる主な資質・能力

人間としてのよりよい生き方や善を指向する感情(道徳的心情)

〈本時にかかわる主な資質・能力〉

相手の喜びが自分の喜びになることを考えさせ、身近な人に温かい気持ちで接し、親切にしようとする心情を育てる

1 主題について**(1)ねらいとする内容項目について**

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編では、低学年児童の段階における「親切, 思いやり」の指導の要点を次のように示している。

この段階においては、家族だけでなく家の周りの人や学校の人々、友達などとの関わりが次第に増えてくる。発達的特質から自分中心の考え方をすることが多いが、様々な人々との関わりの中から相手の考えや気持ちに気づくことができるようになる。

指導に当たっては、幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。そして、身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接することができるようにすることが求められる。また、その結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、具体的に親切な行為ができるようにすることが大切である。

本時では、相手の喜びが自分の喜びになることについて考えさせることを通して、身近な人に温かい気持ちで接し、親切にしようとする心情を育てる。

(2)児童の実態

本学級の児童は、困っている人に優しく声を掛けたり、手伝ってあげたりする姿が多く見られる。本校で独自に実施している道徳実態調査アンケートでは、「友達に優しくしたり、親切にしたりする」という項目で「できている」と回答した児童が20名中16名、「だいたいできている」と回答した児童が4名いた。このことから、友達に対して親切にしよう意識している児童が多いことが考えられる。一方、楽しみなことや自分がやりたいことがあると、相手の気持ちを考えずに自分勝手に行動してしまう児童も数人いる。

(3)指導の手立て

本時では、「はしのうえのおおかみ」という資料を扱う。「一本橋の上を次々と渡ってくる自分より小さくて弱い動物たちを困らせておもしろがっていたおおかみが、自分より大きくて

強いくまに親切にされて、自分の行動を振り返り、親切にすることのよさに気づき、行動を改める」という内容である。小さい動物たちに意地悪をしていたおおかみが、思いがけず相手に親切にされることで、うれしい気持ちになり、他の動物に対して温かい心で接することのよさに気付くという展開になっている。この展開から、親切にすることが、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れる素地をつくり、親切な行為ができるよう指導するために適切な資料であると考えた。

指導にあたっては、価値の追求・把握の段階で児童がおおかみの気持ちの変容に共感できるようにしたい。そのために、おおかみの行動がどのように変わったのかについて1年生にとっても読み取ることができるようにするために挿絵を使って読み聞かせをする。また、意地悪をしていたときの気持ちと親切にしたときの気持ちの変化に着目させるような発問を行うことで、親切にしたときの方がよい気持ちになることに気付かせたい。

2 本時の学習

(1) 本時のねらい

相手の喜びが自分の喜びになることを考えさせ、身近な人に温かい気持ちで接し、親切にしようとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

* 一単位時間レベルB-②【対話重視】

	子どもの活動	思考	□教師の働きかけ ◆評価(評価方法)
導入 5分	1 親切とはどんなことかを考える。 ・相手に優しくすること 2 これまで周りの人に親切にされた経験を想起する。 ・6年生に学校のことを教えてもらった。 ・牛乳パックが開けないときに手伝ってくれた。 3 学習テーマを把握する。	全体	
しんせつにすると・・・			
展開 25分	4 資料「はしのうえのおおかみ」を読む。 5 登場人物とあらすじをつかむ。 ・おおかみが主人公の話。 ・おおかみの他にきつね、うさぎ、たぬきが出てくる。 ・一人しか渡ることのできない細い橋がある。 6 発問① 「うさぎ・きつね・たぬきに意地悪をしているとき、おおかみはどんな気持ちだったでしょうか。」	全体 全体	<input type="checkbox"/> 資料の内容を分かりやすく把握させるために挿絵を使って3つの場面に分けて読み聞かせをする。 *価値の追求・把握の段階で発問を吟味することで、児童の思考を促し、その後の対話をより活性化させる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・意地悪をするのはおもしろいな。 ・もっと意地悪してやる。 ・おれは強いぞ。 ・楽しいな。 <p>7 発問② 「くまの後ろ姿を見ているとき、おおかみは心の中でどんなことを言っていたと思いますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまさん、ありがとう。 ・優しいな。 ・くまさんは強いのに意地悪しないな。 ・渡らせてくれてうれしいな。 ・うさぎたちに悪いことをしたな。 ・次はくまさんみたいにしたい。 <p>8 発問③ 「おおかみはどんなことを考えて橋を渡らせてあげていたのでしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな喜んでくれているな。 ・お礼を言われてうれしいな。 ・優しくする方がいいな。 ・意地悪をしてごめんね。 <p>○役割演技を行い、おおかみの気持ちを考える</p> <p>9 親切にするとどうなるかを考え、本時のまとめをする。</p>	<p>全体</p> <p>全体</p>	<div data-bbox="874 203 1390 338" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>改善のポイント① 発問に対する答えの根拠を明確にさせるための話型を示す。</p> </div> <p>*登場人物の気持ちを表す赤いハートと青いハートを板書に位置付けることで、登場人物の心情の変化を視覚的に捉えさせる。</p> <div data-bbox="906 853 1422 972" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>改善のポイント② 児童の思考を深めるために役割演技をペアで行い、役割を後退させる。</p> </div> <p><input type="checkbox"/> 役割演技をさせる際には、初めに教師がおおかみ役を行い、演技のモデルを示すようにする。また、役割を交換して両方の気持ちを考えさせたり、演技を観ている児童にもどのように感じているかを発言させたりすることで考えを深めさせる。</p>
<p>しんせつにすると、じぶんもあいても きもちがいい。</p>			
<p>終末 15分</p>	<p>10 これまでの自分の生活を想起し、ペアで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食をこぼしたときに手伝ってあげた。 ・ブランコの順番を譲ってあげた。 ・小さい子を遊びに入れてあげられないことがあった。 <p>11 教師の説話を聞く。</p> <p>12 学習を振り返り、道徳ノートに感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに優しくしたいと思った。 ・おおかみがみんなに優しくなってよかったですと思いました。 ・小さい子に意地悪をしないようにしたいと思いました。 	<p>ペア</p>	<p><input type="checkbox"/> 児童が書いたありがとうカードを活用し、親切にしたり、されたりした経験を想起させる。</p> <p><input type="checkbox"/> 親切にされた内容に関わる教師の説話を行う。</p>

4 取り入れたアクティブ・ラーニングの視点と授業改善のポイント

(1) 授業のねらい

【アクティブ化シートB-③(対話重視)】

～親切にすると相手も自分もよい気持ちになることを捉えさせるために、登場人物(おおかみ)の心情の変化について考えさせる～

おおかみの心情の変化を捉えさせるために「対話」を通して友達の考えを参考にしながら考えさせることが効果的であると考えた。その手立てとして場面を3つに区切り、おおかみの変容に気付くことができるように場面ごとに発問をつなげていく工夫をした。また、変容前のおおかみの気持ちと変容後のおおかみの気持ちを言葉だけの表現よりも捉えやすくするために、色分けしたハートを用いて思考を可視化し、対話が生まれやすくなるように工夫した。

3つの場面と発問構成の具体

場面①	自分より小さくて弱い動物に対して意地悪をしている場面
発問～	「うさぎやきつね、たぬきに意地悪をしているとき、おおかみはどのような気持ちだったでしょうか。」
場面②	自分より大きいくまに会い、親切にされ、うれしい気持ちになる場面
発問～	「くまの後ろ姿を見ているとき、おおかみはどのようなことを心の中でいっていたでしょう。」
場面③	自分より小さい動物を優しく渡してあげる場面
発問～	「おおかみは、どのようなことを考えて橋を渡らせてあげていたでしょうか。」

(2) 成果

○場面を大きく3つに区切って考えたことで、児童の思考がおおかみの変容前、変容したきっかけ、変容後の様子の3つに焦点化され、それぞれの場面での対話を通して、心情について考えを深めることができた。

○①の場面で意地悪しているときのおおかみの気持ちよさと、③の場面で親切にしているおおかみの気持ちのよさが同じ「気持ちのよさ」ではないということに気付かせるために、青いハートと赤いハートの絵を用意して、どちらのハートを貼ればよいかについて話し合わせた。このことにより、児童は同じ気持ちよさでもその質が違うことを気付き、また、そのことを視覚的に捉えることができた



【色分けしたハートを用いて心情理解を深める様子】

(3) 改善

改善のポイント①

3つの発問に対して、児童は活発に発言していたが、「親切にすると気持ちがいい。」「うれしかった。」などの発言が多く、「〇〇だから、～と思います。」のように考えの根拠を示した発言は少なかった。児童の考えを深めるためには、「なぜそう思いましたか。」「どうしてそう思いましたか。」などの切り返しの発問をするとよいと考えた。

改善のポイント②

児童の思考を深めるために役割演技を行う際には、より多くの児童に体験させたい。ペアで役割演技を行い、役割を交代することでより多くの児童が体験を通して、心情を理解することができる。